

伊豆半島ジオパーク News Letter

vol.01

2023年4-7月

今号のトピック

- ・ ユネスコ世界ジオパーク再認定
- ・ 学術助成対象研究を決定
- ・ 次世代ジオガイド養成事業
- ・ ジオ学習
- ・ イベントレポート

ユネスコ世界ジオパーク再認定決定通知を受取りました

ユネスコより6月21日、伊豆半島のユネスコ世界ジオパーク再認定の通知が届きました。これにとともに、次の審査までに改善すべき点として、五つの指摘事項がありました。

1. ジオパーク運営：地域コミュニティがジオパークの意思決定やプログラムに直接参画すること。
2. 視認性向上：ジオガイドツアーが実施される場所での視認性の改善（例えば湯ヶ島文学等の文学トレイルの視認性向上）。
3. 地質、自然及び文化遺産の関りについての情報強化。特に生物多様性をからめた情報発信の強化。
4. 運営者：ジェンダーバランスの改善。
5. パートナーシップ：地元食材や工芸品の生産者とのパートナーシップの向上（海草や海藻など）。

再認定の期間は2022年1月1日より2025年12月31日までです。



▼年度末に研究成果発表会を予定しております。

長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科 博士課程 天野 孝保さん

AI技術を導入した録音機器を用いて

■伊豆半島ジオパークを利用する渡り鳥の環境の把握と季節変動の最新の

大阪公立大学大学院理学研究科 修士課程 大下 愛央さん

■伊豆半島南部、蛇石大池湿原の形成史と環境変遷史の高精度復元

令和五年度伊豆半島ジオパーク学術研究助成の対象が決まりました。

2023年度伊豆半島ジオパーク学術研究助成

7月7～9日 次世代ジオガイド養成事業

佐渡ジオパーク日本認定10周年記念事業に参加しました。

若手・中堅の伊豆半島ジオガイドを対象とした「次世代ジオガイド養成事業」では、JGN全国大会や各ブロック大会、視察及び優良ガイドを講師とした研修等へ参加し、他地域のジオパークで実施している先進事例を学び、ジオガイドとの情報交換を行うことで、持続可能なジオツーリズムを推進するガイドを養成することを目的に実施しています。今回は佐渡ジオパークへ

4名（ガイド2名、事務局2名）を派遣しジオツアーや研修会・意見交換会等に参加し、他地域の関係者と交流しました。今後参加する大会・研修会を含め、来年度3月頃に発表会を開催する予定です。



《他地域のジオサイトとガイドツアーを体験》



《スコリア丘を見学する中学生》

函南（かなみ）町立東中学校の1年生に向け、ジオパークの出前授業を実施しました。5月11日に学校にて事前学習、続いて12日にフィールドワークを行い、クラスごとに分かれて修善寺の温泉場や、普段は採石場が稼働して立ち入ることのできない船原山のスコリア丘を見学しました。今回東中学校は初めて当事務局の出前授業をご利用いただいたため、講師無償派遣制度を適用させていただきました。

GEO EDUCATION



Event report

沼津市西浦で「磯のお花見」

4/22

私たちの身近な海、ズボンのすそをめくれば浸れる磯の世界で、春ならではの生き物や海藻の様子を観察しました。ジオガイドの朝倉さんから、西浦の海に住むさまざまな生き物のこと、そのさまざまな生き物をはぐくんでいる入り組んだ海岸線や山の樹木のこと、海に面した岩のような地形を利用してきた人々の歴史などについて教えてもらいました。磯の生き物に詳しい子供たちからは活発に発言があります。磯での注意事項や、磯観察のポイントなど事前の知識のウォーミングアップを終えて、さっそく磯へ向うと、当日は大潮で、ふだんより大きく潮が引いていました。信じられないほど大きなナマコ、不思議な形をした貝、磯の中にはいろいろな姿と性格を持つ生き物がいました。そして春は産卵の季節。水の中にフワフワとたたく貝やウミウシの卵。もうすぐ収穫の時期を迎えるひじきも、普段目にする乾燥ひじきとは全然違うものでした。伊豆半島の磯の中にどのように生きものが暮らしているのか、そして磯にも季節があることを改めて知る機会となりました。



幼魚の「ジオぱく」

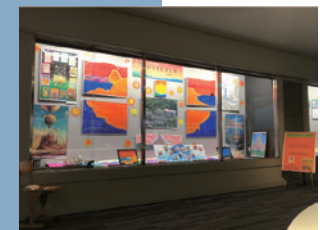
6/3

ちょうど漁期となったしらすを食材として取り上げました。シラスといえは、カタクチイワシの幼魚。イベントの前半では、会場となる静ガスのシヨールーム「エネリア」のすぐそばにある幼魚水族館で、広報の石垣さんから、伊豆半島に棲むいろいろな魚の幼魚の生態を教えてくださいました。また幼魚が育つ港の環境のことから、海洋ゴミについて知る機会ともなりました。幼魚水族館を見学したら、今度はエネリアで幼魚パン作り挑戦。エネリアスタッフがこの日のために準備したレシピで、見てきたばかりのお気に入りの幼魚の形を、伊豆半島の食材を使ってパンにしました。参加者の皆さんは、伊豆半島に棲む魚の名前や生態を覚え、香ばしいパンを持ち帰りました。

ちよと漁期となつたしらすを食材として取り上げました。シラスといえは、カタクチイワシの幼魚。イベントの前半では、会場となる静ガスのシヨールーム「エネリア」のすぐそばにある幼魚水族館で、広報の石垣さんから、伊豆半島に棲むいろいろな魚の幼魚の生態を教えてくださいました。また幼魚が育つ港の環境のことから、海洋ゴミについて知る機会ともなりました。幼魚水族館を見学したら、今度はエネリアで幼魚パン作り挑戦。エネリアスタッフがこの日のために準備したレシピで、見てきたばかりのお気に入りの幼魚の形を、伊豆半島の食材を使ってパンにしました。参加者の皆さんは、伊豆半島に棲む魚の名前や生態を覚え、香ばしいパンを持ち帰りました。

企画展を開催

ジオリアの企画展示スペースにて、
①「伊豆の国市立長岡中学校 優秀ジオポスター」展（4/20～6/20）と
②「絵本『ひかりを灯すしま』作品展」（6/22～8/29）を開催しました。
①は長岡中学校の1年生が総合的学習の時間や理科の授業で学んだことをもとに、各自が1枚のポスターにまとめたもののうち、校内表彰で選ばれた16点を展示しました。
②は伊豆半島の医療をモチーフにした同名の絵本の作者・河原一剛さんの作品を展示しました。



海その道を通じて 海の環境を学ぶ

7/17

海の日でもあるこの日は、近年の伊豆半島の海の問題、磯焼けについて取り上げることにしました。伊豆半島に生まれ育ちながら、海の問題の変化を目の当たりにし、現在アマモ場の再生に取り組むMO海プラスSOCの理事長杉山さんにお越しいただき、海の生物多様性に一役買っている海その道のことについて教わりました。海藻と海草の違い、その種類、ライフサイクル、私たちの生活との関連性、海の中の役割についてなど。参加者の関心も高く、熱心に質問が上がりました。お話のあとでは、海藻の中でも伊豆半島の特産品でもあるテングサを煮出して作ったところと、白玉団子や三島の製菓所のあるこなどを使って、アクアリウムのようなあんみつを作るワークショップを行いました。海の中での海その道の役割を知り、それを私たちがどのように生活に取り入れていくかの一例を体験する機会となりました。



こどもの日に「ブナ」のワークショップ

こどもの日にブナをテーマとしたワークショップを開催しました。
ブナの林は、伊豆半島では標高の高い天城山、愛鷹山、函南原生林などにみられます。今回のワークショップは、ちょうど青葉の時期に合わせで行いました。ブナに詳しい天城自然ガイドクラブの杉本ジオガイドを講師に招き、天城の山の話、どうしてその環境を選んでブナが生えるのか、森におけるブナの働き、食害の現状、今の季節のブナ林の様子、陸の豊かさを守るには、といった話をしてもらいました。参加者は、帰省中の子供たちから、山のこともっと学びたいジオガイドさんまでさまざま。
折り紙でブナの葉を作りながら、その構造について学んだり、拾い集めたブナの枝や実なども入れて、それぞれが自分だけのハーバリウムを作り持ち帰りました。子供たちにはすこし難しいかな？とも思いましたが、後半の作業は子どもたちも夢中で、楽しかった！と言ってもらうことができました。
ブナ林を訪



企画展関連のギャラリートーク - ジオカフェを開催

企画展「絵本 ひかりを灯すしま」の展示期間中に、絵本作家であり医療従事者でもある河原氏と、地域福祉を専門とする静岡大学東部サテライトの内山智尋講師による対談を行いました。
対談の中では、それぞれの取組を紹介しつつ、個人が病気や障がいを抱えつつも地域の文化や歴史、人と人とのつながり、異なる分野をつなげることで生まれる可能性などについて話題を広げました。障がいを持つ人や高齢の方たちも含めたすべての人々がよりよく生きていく地域をどのように作っていくかということ、ジオパークが目指す持続可能な社会を意識しながら改めて考える場となりました。参加者は医療関係の方が多く、福祉や医療分野の方々にジオパークのことを知っていただく機会ともなりました。



日本ジオパークネットワーク (JGN) の取組

・ネットワークが目指すもの
JGNの大切な活動はネットワーク活動です。地域内外の人と人、教育や保全活動、企業や事業者のパートナーシップ活動は、伊豆半島ジオパークの重要な取組でもあります。複雑化する地域課題の取り組みには、未知の新たなつながりが不可欠であるのかもしれませんが。国内46地域のジオパークのネットワーク活動は、事務局や研究員のみならずジオガイドや地域間交流を通じて取組むネットワーク強化が求められています。



発行元：(一社)美しい伊豆創造センター ジオパーク推進部
〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内
☎ 0558-72-0520
✉ info@izugeopark.org
URL https://izugeopark.org/



伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」
〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内
開館時間／9:00～17:00(入館は閉館時間の30分前まで)
FAX 0558-72-0525
☎ 0558-72-1355
休館日／水曜日・年末年始(12/29～1/3)
(水曜が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)



伊豆半島ジオパークのサポーターになりませんか？
サポーターには定期的にイベント等のお知らせをお送りします。
←詳細はこちら